



中高生とともに差別と闘う

人間であり続けること

吉成タダシ (うずしおランチ代表)



Mからの電話
 「先生、友達が死にましたー」
 新年一月四日にかかってきた、教え子Mからの涙をこらえての電話でした。折しも、能登半島地震、航空機事故と、痛ましいニュースが相継いでいたところでした。
 電話に出たところから、すでに声は沈んでいました。何かあったな、とは思っていましたが、聞いていくと、その友達は一年ほど前に彼氏を追って上京し、そして別れ、昨年の九月ごろにSNSで知り合った仲間と共に自動車内で自殺をしたとのことでした。
 そもそもその友達は、十代のとき、両親の離婚が原因で、母親について県外から引越してきたといます。母親の再婚相手からは虐待も受けていたとのことでした。そんな頃に友達つながりで知り合い、家出のようにしてMの家でルームシェアを始めたのが、知り合うきっかけだったそうです。
 M自身の生い立ちや生活環境でも高校生の会に来て語らったり、精神的なサポートをしながら、何とか今まで踏ん張ってきていました。だからこそ、その友達の思いも分かるし、何とかしたいという気持ちがあったのだと思います。

ロゼットの奇跡
 「ロゼットの奇跡」という有名なお話があります。ロゼットは、アメリカ・ペンシルバニア州にある、イタリヤから移民してきた千数百人くらいの小さな村です。一九五〇、六〇年に行った調査で、この村の心臓疾患による死亡率が、他と比べて半分以下だったことから注目を集めるようになります。
 どうしてこの村だけが――
 飲酒、喫煙、食事、運動といった健康行動や意識、あるいは生活水準など、ありとあらゆる調査が研究者らによって行われました。しかしそれらは、他の町と大して変わりません。ではなぜ、ロゼットの人々だけが心臓疾患にかかる確率がこんなに低いのか。
 研究者たちが導き出した結論は、「連帯感や助け合い」以外に、その理由は見当たらないというものだったそうです。つまり、小さいコミュニティのなかでお互いが支え、助け合ってきた結果ではないかと。
 しかしそれも、外部との交流が盛んになってからは結束が弱まり、アメリカ的な生活スタイルに変わっていくことで、周りの町と同じようになっていったといえます。今なら、DNA解析で新たな要因も見つかるかもしれません。が、もし本当に人と人の結びつきが原因だとすれば……

命を救う語り合い
 自殺した友達についてMはこう語りました。
 「つながり続けていられれば、死なせずにすんだかも……」
 M自身も、リアルなつながりのなかで救われてきた思いがあったからこそ、出た言葉だと思えます。SNSも時には大きな役割も果たす大切なツールでしょう。でも昨今の事件を見ていると、その真逆の悲惨な結果に至るケースがあることも事実です。
 前号で、自殺防止のための電話相談に取り組んでおられるという方が、「人が誰かに話すことはすごく大事だと思います」とおっしゃられていたと紹介しました。そして、私たちは、「みんな語り合う」という取り組みをしています。もしかすると、「みんな語り合う」というリアルな行為は、自殺予防・自殺防止の一助にもなり得るのかもしれない。いえ、すでにできているのかもしれない。

人間であり続けること
 気持ちが落ち着いたころ、Mは言いました。
 「ボク、彼女の歌をつくらうと思います。」
 Mは体調のいい時には、ストーリーミュージシャンとして活動しています。
 「上手くしゃべることは苦手だけど、歌ならうたうことができると、歌に乗せてなら、自分の思いを伝えることができる。」
 生前、その友達が、「いつか私のことを歌にして」と言っていたのだそうです。いいじゃない、と私も背中を押しました。考えてみれば私も、大切な人の死や想いに寄せて、小説を書いたようなもの。そう思うと、音楽にする文芸にしろ美術にしろ、芸術とは人間の情動の現れであることを再認識させられます。
 感情はときに厄介なものです。でもその感情があつてこそ人間だとも言えます。いくら時代が進み、世界がAIに取って代わられるようなことがあつても、私は人間であり続けたいと思います。

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人間としての生き方を考える道德教育と同和教育⑨ ～同和教育が土台にあるから深まっていく～

道德教育と同和教育についてひたむきに語った言葉

授業終了が迫る中、生徒たちは、同和問題学習の重要性を訴えていきます。同和地区の生徒にとって、同和問題学習は、自分自身の人生を大きく変えるものです。同和教育と出会えたからこそ、今の自分があると、当時、取り組まれていた同和対象地区学習会で学ぶ2人の仲間が、ひたむきに語った言葉です。

M・Mの語り

「同和問題学習を通してできた仲間がいたから、今の自分がある」

この『ナイン』の学習ももともになるものは、同和問題学習だと思えます。この資料も国語の授業として考えれば難しいことがいっぱいあって、あまり考えが出てこなかったと思うけど、今まで取り組んできた同和問題学習を土台として考えてみたら、どんどん考えが深まっていくし、出てきた意見についても自分でももっともって考えていかなければという思いがあつて、実際に考えられるようになったのは、同和問題の学習があつたからだと思うんです。

前の時間に道德の学習と同和問題の学習は違うという話があつたけど、やっぱり道德の学習をしていく上でも、今までの部落問題学習の積み上げがあつたから考えることができたし、僕たちは同和問題学習の方を先に重点的に勉強していたから、ここまで意見が言えるようになって、この『ナイン』の資料とかもより深く考えられるようになったから、同和問題の学習は人間の生き方を考えていく基本としてとても大切なものだと思います。

また、ここまで周りのみんなを信頼できるようになってきて、支え合う仲間ができてみんなとの絆がどんどん深まってきたのは、やっぱり同和問題学習があつたからだと思うんです。僕には同和問題学習を通してできた仲間がいたから、今の自分があるんであつて、仲間がいなくて支えがなかったら今の自分はなかったと思います。



H・Iの語り

「同和問題学習も道德の学習も変わらない」

今日の授業はみんなに熱いものがこみ上げてきたと思います。こんなに発表するんだから、みんな一生懸命になっているんだと思います。

そして、舞台の横に書かれている大会主題を見てみると「人間としての生き方を考える道德教育」と書いてあるけど、M・M君の言うように人間としての生き方を考えていく上では、同和問題学習も道德の学習も変わらないんだと思います。



「人間としての生き方を考えていく上では、同和教育も道德教育も変わらない」という語り、それは500名を超える参観者の心に染み込み、私の心に刻まれていきます。